

## 男女共同参画推進連携会議企画委員会

### 「202030小委員会」活動報告と今後の課題（案）

#### 【活動目的】

多様性に富んだ活力ある社会の実現のためには、社会における女性の参画が重要であり、政府においても、「2020年までに、あらゆる分野で指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度」になることを目指して取り組んできたところであるが、現状としては、女性の参画の拡大は緩やかであり、社会の様々な分野における女性の活躍は国際的にみても低い水準にとどまっている。

こうした現状を踏まえ、本委員会では、目標値に対する単なる数合わせにとどまらず、対象をきめ細かく設定した上で、それぞれにおいて女性の参画を妨げる要因を分析、解決策を検討し、「2020年30%」の目標に向けたロードマップを作成するとともに、具体的な成果を男女共同参画推進連携会議において共有し、また同会議の活性化を図ることを目的とする。

#### 【活動内容】

##### ○ 女性の参画について、アンケート調査を実施

連携会議構成団体(90 団体)の男女共同参画に関する具体的な取組を明確にし、女性の参画を阻む要因の分析を実施することを目的として、各界・各層で活躍する女性や、その周囲を取り巻く環境について、平成 20 年9月にアンケート調査を実施した。アンケートの調査票は、議員等(連携会議議員に加え、傘下団体のトップや人事担当者)、管理職の女性、非管理職の女性の3つに区分し、25 団体の方に回答をいただいた。

##### ○ アンケート結果の検討

結果をみると、女性の参画拡大のためには、①男性だけでなく、女性自身も含めた社会全般における固定的役割分担意識の見直し、②男性も含めた働き方の見直しを含めた仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現、③女性がキャリアデザインを行うための環境整備、能力開発のための支援(豊富なロールモデル、相談体制の整備)、に取り組んでいく必要があることがわかった。

また、「家事・育児は女性がするもの」といった固定的役割分担意識により、女性が家事や育児の負担を背負うことになり、仕事と生活の調和(WLB)が損な

われている、というように①～③の取組は相互に影響し合っている。昨年4月に男女共同参画推進本部において決定された「女性の参画加速プログラム」でも規定されているように、これらの取組を一体として進めていくことが重要である。

#### **【今後の課題】**

現在、男女共同参画会議基本問題・計画専門調査会において、男女共同参画基本計画の改定作業が行われているところであり、女性の参画の拡大についても、大きな検討課題の一つとされているところ。今後は、当該調査会における議論を踏まえつつ、「2020年30%」の目標に向けた施策について検討することとする。